

○第1次佐伯市総合計画後期基本計画（素案） P62

○7 まちづくり分野

○個別目標5

地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進める

○具体的な取組

（1）地域の実情に応じ、地域づくりの計画を策定します

前期基本計画は、分野別計画と地域別振興計画（旧町村単位）の2つの計画で構成されていました。

後期基本計画では、分野別計画のみの構成とし、地域別振興計画については、まちづくり分野に新たな個別目標を設けて、分野別の中に包括しました。

その地域づくり計画（素案）については、以下のとおりです。

## 地域名 佐伯地域

### 1 目指すべき姿

人と人々が安心して集い合う中心市街地の機能に歴史を織り交ぜ、文化の香りあふれるまちをつくります

### 2 地域の個性

戦後、佐伯地域は商業と造船を中心とした工業分野の集積が進み、本市経済の中心的役割を果たしてきました。しかし、近年、郊外に大規模商業施設が相次いで立地し、市街地は商業を主体とした求心力が低下、中心市街地の再生が大きな課題となっています。

また、中心市街地の周辺に位置する地域についても、人口の減少が続いており、高齢者も安全に生活することができる中心市街地を核とした地域の活性化が求められています。

一方、郊外にはよく整備された圃場が広がり、稲作とハウス園芸の営まれる農村集落が広がります。佐伯湾の奥部には「大入島」が浮かび、水産業中心の漁村集落が点在します。林業ともあわせ、市経済の一翼を担う一次産業も厳しい経営環境にあります。

歴史・文化面では中世を経て藩政時代さらに戦中戦後と時代の節目に、佐伯地域は大きな関わりを持つ場所となってきました。各所に点在する歴史・文化遺産は市民の誇れる大切な財産です。

以上のことから、佐伯地域の個性を列記すると

- (1) 九州一広大な佐伯市の顔ともいえるべき中心市街地
- (2) 中心市街地を核とした個性豊かな周辺地域
- (3) 番匠川の下流域に広がる肥沃な農地と恵み豊かな佐伯湾
- (4) 市宝としての歴史・文化遺産

となります。

### 3 特性をいかす取組

- (1) 中心市街地を活性化します。
- (2) 地域振興に対する取組に支援をします。
- (3) 第一次産業製品の流通を促進します。
- (4) ランドマーク城山に本市の歴史を織り交ぜた観光振興に取り組みます。

## 地域名 上浦地域

### 1 目指すべき姿

日本一美しいまちづくりを目指します

### 2 地域の個性

上浦地域は、リアス式海岸の景観が美しい細長い海の町です。豊後二見ヶ浦や瀬会公園、暁嵐の滝といった数々の名所など、海と山の豊かな自然に恵まれています。特に、豊後二見ヶ浦のしめ縄の張替えや初日の出には、市内外から多くの人々が訪れます。また、しめ縄のワラが縁で竹田市荻町の人々との交流も続いています。

この自然に感謝し、環境を破壊することのないよう、また、地域外からの訪問者を温かく迎えらるよう「日本一美しいまち」づくりに取り組んでいます。

### 3 特性をいかす取組

- (1) 海岸の環境を整備し、やすらぎのある空間を作ります。
- (2) 豊後二見ヶ浦・瀬会海水浴場などの自然や文化資源をいかし、交流人口の増加を図ります。
- (3) 沿道や観光拠点周辺の修景（植栽等）やクリーンアップ事業の推進を図ります。
- (4) 上浦の資源を活用した特産品の開発や料理の掘り起こしを図ります。
- (5) 台風時の越波対策に取り組めます。
- (6) 水産業振興のため長田漁港の整備に取り組めます。
- (7) 県道四浦港津井浦線（蒲戸～大浜間）の改良要望を積極的に行い、交通網の整備に取り組めます。

## 1 目指すべき姿

「人もまちも美しく、健康で、活力のある快適居住空間のまち」  
を目指します

## 2 地域の個性

弥生地域は、まちの中心を国道10号が走り、佐伯市中心街からも高速道インターチェンジからも近いという立地条件に加え、日常生活に必要な各種商業施設や行政機関・金融機関・学校・病院・運動施設等が一定の範囲に集まり、とても利便性に優れています。また、番匠川や井崎川、四季折々の草花など、豊かな自然環境にも恵まれています。さらに、地域の中心部には、「道の駅やよい」があり、地域の人々や来訪者が楽しく集える重要なコミュニティの場となっています。このような環境の中で、弥生地域は、今日も合併前の人口を維持しており、今後とも、より一層「快適な居住空間」を提供できるまちでありたいと願っています。

そのため、かつて弥生地域を代表していた食材や伝統・文化などの地域資源や、今日までの地域の活動等をもう一度見直すとともに、これらを適宜新たな取組と融合して展開すること等により、人々がより一層、健康で活力に満ちあふれ、「ここに住みたい」と思えるまちづくりに取り組んでいます。

## 3 特性をいかす取組

- (1) 生姜、桑その他の地域資源を活用して特産品の開発等を行い、地域産業の活性化に努めます。
- (2) 各種の地域資源を活用してイベント等を行い、交流人口の増加に努めます。
- (3) 「道の駅やよい」を更に活用し、情報発信と産物の販売等の促進に努めます。
- (4) 従来からの取組に加え、生姜、桑、ウォーキングコース等を活用すること等により、地域の人々の一層の健康づくりに努めます。
- (5) 地域における保育所待機児童等の健全育成活動が一層充実するように努めます。
- (6) 地域の人々が自らまちづくりを考えることのできるような環境の整備に努めます。

## 地域名 本匠地域

### 1 目指すべき姿

都市部の人たちとの交流を通じて、心の癒しを提供し、活力あるまちづくりを目指します

### 2 地域の個性

本地域は平成16年度に広域合併し佐伯市となりました。面積は123.15K㎡で総面積の95.6%を占める山林と番匠川を始めとする大小の河川など自然に恵まれた地域です。日本一の蛍の里でシーズンには県内外から多くの人たちが鑑賞に訪れます。一方で、本地域は農林業が基幹産業ですが、その基幹産業は、木材価格の低迷や高齢化により衰退の一途をたどっています。古くからお茶栽培が行われ、28haの茶畑で生葉80tの生産量がある地域内には個人・公を含め5つの茶工場があり、それぞれの工場は釜茶加工施設を有し、加工・製品の販売まで一貫で行っています。椎茸栽培は、25t程ですが、1.5haの人工ほだ場団地を建設し、収量、品質の向上に努めています。

日本大水車茶屋では、本地域で栽培された夏・秋そばを石臼を使って製粉し、地元産そばとして地域内外に認知されています。

### 3 特性をいかす取組

- (1) 県道三重弥生線（堂ノ間工区等）の未改良区間の改良要望を積極的に行い、交通網の整備に取り組みます。
- (2) 体験を通じて本地域が持つ特色（自然）を活かし都市部の人たちに満喫してもらい、自然を肌で感じる心の癒しを提供します。
- (3) 地域の特産品を随所に折り込み、販売の促進に努めます。
- (4) 自然を全面とした観光と第1産業をマッチングした集落の構築を図ることで交流人口の増と農家所得の向上を図ります。
- (5) 「本匠地域活性化センター（有）きらり」を中心とした地域ぐるみの事業を実施します。

地域名 宇目地域

1 目指すべき姿

緑豊かな自然と共存し、伝統芸能・祭りを維持し、継承できるまちづくりを目指します

2 地域の個性

祖母・傾国定公園を代表とする豊かな自然に恵まれ、歴史のある祭り多くの郷土芸能を有し、子供から高齢者に至るまで、古くから様々な形で自然と文化に触れあっています。宇目地域の自然と文化は、地域住民の活力の源であるとともに豊かな心を育て、教育や福祉の充実、産業の振興など、まちづくりに大きな役割を果たしています。

3 特性をいかす取組

- (1) 自然環境の保全に取り組みます。
- (2) 子どもたちの自然観察活動と文化活動に取り組みます。
- (3) 郷土芸能の後継者の育成に取り組みます。
- (4) 地域に伝わる祭りの活性化に取り組みます。
- (5) 「NPO 法人 宇目まちづくり協議会」と連携した取り組みをします。

## 地域名 直川地域

### 1 目指すべき姿

美しい森林と豊かな田園の恵み受け、やすらぎと心ふれあうまちづくりを目指します

### 2 地域の個性

本地域は若年層を中心とした人口の流出と、少子高齢化による集落機能の低下が懸念されています。世帯のほとんどが会社勤めなど、農業・林業以外の仕事で収入を得ている第二種兼業という状況です。農地や山林を所有していますが米価や木材価格の低下、鹿等の食害、後継者不足等によって経営意欲が低下し、耕作放棄地や再造林されない山が増えています。しかし、山にはまだまだスギ、ヒノキなどの豊富な樹木が茂り、里には区画の整理された肥沃な耕地が広がっています。市内で唯一のゴルフコースを持つ直川カントリー倶楽部、湧出する鉱泉を入浴施設に利用した鉱泉センター直川、シーズンになれば生きたカブトムシとふれあえる直川憩の森キャンプ場、地元の特産品を直売する直川まるごと市場等の観光施設もあります。また、誠実で温厚な人柄の地域で教育活動や、文化活動、地域活動が盛んに行われています。

### 3 特性をいかす取組

- (1) 地域のつながりを強化して、子どもから大人までが安心して安全に暮らせる快適な地域づくりに努めます。
- (2) 防災機能を強化し、異常気象などによる災害に強い地域づくりに努めます。
- (3) 福祉を推進し、誰もが健康で、心ふれあう地域づくりに努めます。
- (4) 地域に根ざした教育と豊かな文化を育む地域づくりに努めます。
- (5) 地域づくりを担う中核的なグループやリーダーの育成を行います。
- (6) 有害鳥獣対策、農林産業の合理化、後継者の育成等の施策を行い、農地や林地の荒廃を抑制します。
- (7) 農林産物直売所等をいかして、地産地消運動を通じた農業生産の向上、魅力ある特産品の開発を行います。
- (8) カブトムシに特化した地域づくりを行い、交流人口の拡大に努めます。

## 地域名 鶴見地域

### 1 目指すべき姿

鶴見地域の自然、文化、暮らしを含めた地域資源を大切にし、高齢者をはじめとした地域住民の経験や能力をいかした地域資源の再開発と、水産業と観光業とのジョイントを核とした、新たな交流ビジネスモデルを構築し、活力あるまちづくりを目指します

### 2 地域の個性

鶴見地域は、九州の最東端に位置し、豊後水道に突出した鶴見半島稜線を境にして、北側に位置しています。海岸は典型的なリアス式海岸であり、島や岩礁が調和し自然美豊かです。

古くから漁船漁業が基幹産業で、豊後水道海域の豊かな漁場からの多種多様な魚種の水揚げにより潤ってきましたが、近年、漁獲量、漁獲高の減少により、かつての賑わいがなくなっています。

地域経済の浮揚を図るためには、水産業の活性化を単体で行うのではなく、自然美豊かな景観と全国的に評価の高い豊後水道で漁獲された魚を、食、健康、観光とリンクさせた新たな交流ビジネスモデルの構築が急務です。

### 3 特性をいかす取組

- (1) 番匠川架橋の新設要望や県道未改良区間の改良要望を積極的に行い、交通網の整備に取り組みます。
- (2) 景観など恵まれた自然環境の積極的なアピールに取り組みます。
- (3) 産直販売等の経済拠点づくり（観光市場の創設プランの作成）に取り組みます。
- (4) 朝市の育成強化と外来客への目玉となる回遊（海遊）プランの整備に取り組みます。
- (5) 既設の施設をリンクし、点から面へのビジネスネットワーク作りに取り組みます。
- (6) 食・観光・健康（癒し・マリンスポーツ等）をリンクさせた新たなスタイルづくりに取り組みます。



## 1 目指すべき姿

豊後水道の豊かな自然をいかした観光資源の開発と地場産業の振興を図り、人と人々が支え合い安心して暮らせるまちづくりを目指します

## 2 地域の個性

米水津には地元水産加工会社16社で組織する「米水津水産加工協同組合」があり、年間40億円を売り上げ、人口2,100人ほどの地域で400人を超える雇用が生まれています。

そして、全国有数の地域ブランドである水産加工品や味、品質ともに市場で高い評価を受けている養殖ブリ、獲れたての新鮮な魚介類を提供する地元漁師の手づくり朝市、間越「来だんせへ市」、風光明媚なリアス式海岸と360度のパノラマを眼下に見る「元越山に登る会」、米水津自慢の水産加工品の食べ放題や鮮魚、貝類等を浜値で提供する「海ん衆まんぷく市」など地域グループ主催の豊富なイベントを開催しています。

そのほか爽やかな眺めで人気のある「豊後くろしおライン」、なかでも眺望豊かな「空の展望所」は米水津の最も誇るべき観光資源です。

また、本地域は地政学上からも過去に10mを超える津波に襲われた歴史をもっており、それゆえに住民も地震や津波に対する防災意識が高く、津波に特化した地域独自の避難訓練を実施しています。

今後も災害弱者といわれる高齢者や子どもたちを中心とする防災対策の強化を地域の最重要課題として位置付けています。

## 3 特性をいかす取組

(1) 「来だんせへ市」「元越山に登る会」「海ん衆まんぷく市」などの地域活性化につながるグループの支援並びに新たな地域活性化グループの育成に取り組めます。

(2) 豊後くろしおラインから望む眺望豊かな「空の展望所」の観光開発に取り組めます。

(3) 通学路の安全確保並びに観光客の利便性を図るとともに、地場産業の発展と雇用の確保に努めるため、第2浦代トンネルの早期着工に向け積極的に取り組めます。

(4) 今世紀前半にも発生が危惧される東海、東南海、南海地震の津波に対する防災対策のより一層の強化に取り組めます。

## 地域名 蒲江地域

### 1 目指すべき姿

浦々の個性を尊重し、それぞれの世代が役割を果たし、人々が安心して生活し、笑顔があふれるまちづくりを目指します

### 2 地域の個性

蒲江地域は、14の浦と島からなる集落の連合体で浦々ごとに特色ある自然、歴史、文化を有しています。各湾に浦が存在するためその集落の独立性が高く、浦々が個性を持っています。旧来からその浦々では、婦人会、老人会、地域づくり団体、自治組織等各種団体の活動が活発に行われており、それぞれの地域コミュニティが形成されています。今後は更に各浦が互いに補完し合い、強い絆で結ばれた蒲江らしさが感じられる活気あふれる浦づくりを目指すとともに、地域外にも浦をアピールし、連携・交流を深めるまちづくりを推進します。

### 3 特性をいかす取組

- (1) 浦々の地域コミュニティ団体の育成と住民活動を支援します。
- (2) 資源の発掘や情報発信に努め、交流人口の増加に取り組みます。
- (3) 花いっぱい運動の活動を支援します。
- (4) 地域間の交流促進と安全確保のため、「葛原～丸市尾間」のトンネル建設や国道388号入津バイパスの改良が早期に実現するように働きかけます。